

令和 7 年度大垣市スポーツ推進審議会 会議録

日時	令和 7 年 8 月 25 日（月） 17 時 00 分～18 時 30 分
場所	大垣市役所 6 階 6-3、6-4 会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会のことば 2 教育長あいさつ 3 審議会委員紹介 4 会長及び副会長の選出 5 会長挨拶 6 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1)令和 6 年度スポーツ推進事業実績について (2)令和 7 年度スポーツ推進事業計画について (3)大垣市第 2 次教育振興基本計画(スポーツ分野)の前期の最終状況について 7 その他 大垣市中学校部活動地域展開について 8 閉会のことば
出席者	委員 9 名、事務局 7 名 計 16 名 <ul style="list-style-type: none"> ・大垣市スポーツ推進審議会委員（敬称略） 堤俊彦、高橋正紀、森本浩一、水野哲也、山口敏文、都竹直孝、臼井好美、田邊麻紗子、高木有貴 ・オブザーバー 関琢磨 ・事務局 細江敦（教育長）、馬淵義昭（教育委員会事務局長）、 洞口直樹（社会教育スポーツ課長）、松永健一郎（同課参事）、 細野雄樹（同課参事）、伊藤誠（同課主幹）、 廣島明美（同課主査）
欠席者	委員 3 名 <ul style="list-style-type: none"> ・大垣市スポーツ推進審議会委員（敬称略） 平松哲、川瀬尚志、川合麻美
傍聴者	なし
事務局	1 開会のことば（略）※議事以外の司会進行
教育長	2 教育長あいさつ（略）

事務局	3 審議会委員紹介 ・ 委員の紹介 ・ 欠席委員の報告
事務局	4 会長及び副会長の選出 (大垣市附属機関設置条例第 5 条第 2 項)
委員	会長には堤委員を、副会長には高橋委員を推薦いたします。
各委員	異議なし。
事務局	※ 会長に堤委員、副会長に高橋委員が選出されたことを報告。
会長	5 会長あいさつ (略)
会長	6 議事 ・ 出席委員数及び審議会成立の報告 (大垣市附属機関設置条例第 6 条第 2 項) ・ 傍聴者の報告 ※傍聴者なし ・ 議事進行 (大垣市附属機関設置条例第 5 条第 3 項)
会長	『議事(1) 令和 6 年度スポーツ推進事業実績について』事務局から説明をお願いします。
事務局	※ 『議事(1) 令和 6 年度スポーツ推進事業実績について』(資料 1) を説明
会長	議事(1)について、事務局から説明がありました。ご意見やご質問はございませんでしょうか。
各委員	異議なし。

会長	『議事(2) 令和7年度スポーツ推進事業計画について』事務局から説明をお願いします。
事務局	※ 『議事(2) 令和7年度スポーツ推進事業計画について』(資料2)を説明
会長	議事(2)について、事務局から説明がありました。ご意見やご質問はございませんでしょうか。
委員	部活動地域展開の実証事業について、令和7年度から予算額が増額となっていますが、進展しているということですね。
会長	順調に進んでいるため増加しています。後ほど事務局から説明があります。
委員	小野小学校では、スポーツ少年団連絡協議会における支援、施設営繕、学校開放、イベントの支援、さらには課題となる地域展開に関するものまで予算化されていることに感謝しています。加えて、ミナモソフトボールクラブによる小中学校における体育授業等での指導も大変ありがたく思っています。ミナモの選手が直接来校し、1時間の授業の中で基礎的な内容だけでなくゲームまで行ってくさっています。これらの取り組みを非常にありがたく感じており、今後さらにこのような活動が広がっていくことを期待しています。
会長	ミナモソフトボールクラブは、市から補助金をいただいているため、その恩返しとして、子どもたちが楽しめるよう様々な工夫を凝らしています。活動中は子どもたちと笑いながら楽しく交流でき、選手たちも大変喜んでいきます。他のチームのほとんどが企業チームである中、ミナモは唯一、地域に根ざしたボランティアチームとして活動しています。
委員	そのような活動は大変ありがたいのですが、残念なことに少年団でソフトボールが廃止されてしまいました。体育の授業を

	<p>きっかけにソフトボールをやりたいと思う子どもが出てくる可能性があるにもかかわらず、受け皿となる少年団がなくなってしまったことは非常に残念です。これは少年団の責任ではありますが、今後はミナモの協力を得て、地域全体での取り組みも含めて、何か新しい方策を考えられないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>クラブチームは小中学生対象にありますが、ミナモの立場として、その点はしっかり受け止めたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>ソフトボールに関しては、かつては市内の各子供会でソフトボール大会が開催されていましたが、約20年前にその活動がなくなりました。その結果、子どもたちがソフトボールに触れる機会が大幅に減少し、現在ではこのスポーツ自体を知らない子どもたちも少なくないのではないのでしょうか。そのような状況下で、ミナモというアスリートチームが学校で教室を開催して下さることは、非常にありがたく貴重な機会だと考えています。</p>
<p>会長</p>	<p>ソフトボールに関しては、市内に独立したクラブチームが3つ存在しています。ミナモの選手たちは、自身の試合の合間を縫って、ミナモジュニアと共に活動を行っています。地域の皆様からの声が彼女たちの大きな力となりますので、私からもその声をしっかりと伝えていきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>他に、ご意見等ないようですので、続きまして『議事(3) 大垣市第2次教育振興基本計画（スポーツ分野）の前期の最終状況について』事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>※ 『議事(3) 大垣市第2次教育振興基本計画（スポーツ分野）の前期の最終状況について』（資料3）を説明</p>
<p>会長</p>	<p>議事(3)について、事務局から説明がありました。ご意見やご質問はございませんでしょうか。</p>

委員	<p>4番目のスポーツができる環境整備に関して、少年団の活動において、近年の夏季の気象条件により活動が困難な状況に直面しています。朝早くからの活動は保護者への負担が大きく、夜間の活動にはナイター設備が、室内での活動にはエアコン設備が必要となります。これらの課題はここ数年来の問題となっており、結果として活動を縮小せざるを得ない状況に陥っています。熱中症アラートが発令された際は本来活動を中止すべきであり、この問題の解決は困難かつ多額の費用を要しますが、設備面での改善が何らかの形で実現できることを切実に願っています。</p>
委員	<p>エアコンの設置状況は、どうなっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>小学校10校で先行して導入し、来年度に残りの小学校、その後中学校と段階的に進め、数年以内に市内全ての小中学校への設置を予定しています。</p>
委員	<p>私はスポーツ推進委員として、タスポニーの普及に努めていますが、毎回体育館にラインを貼り直す必要があるため、コート設営に時間がかかることが問題となっています。ラインを貼るには計測等で時間を要し、ラインテープも高価であるため、各校区で十分な練習ができない状況です。この問題を解決するために、マーキングの導入など、効率的なコート設営方法についてご検討いただきたいと思いますと考えています。</p>
会長	<p>タスポニーとはどのようなスポーツですか。</p>
委員	<p>愛知県発祥のスポーツであるタスポニーは、幅広い年代の人々が楽しめるため、大垣市でも普及を図りたいと考えています。</p>
委員	<p>テニスみたいなものですね。マーキングは臨機応変にできるのではと思いますが。</p>

事務局	<p>学校の体育館に引かれているラインは、主に学校の体育授業で使用されるものです。タスポニーは学校の正規の授業ではありませんが、地域のスポーツ振興の観点から、このスポーツに適した環境を整備することも重要だと考えられます。そのため、学校施設の管理を担当する部署と協議する必要があります。</p>
会長	<p>他にご発言もないようですので、以上をもちまして、全ての議事を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>7 その他</p> <p>堤会長、ありがとうございました。それでは、最後に『その他大垣市中学校部活動地域展開について』事務局から説明いたします。</p> <p>※ 『その他 大垣市中学校部活動地域展開について』(資料4)を説明</p> <p>ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問はございませんでしょうか。</p>
事務局	<p>先ほど、委員から部活動の地域展開に係る予算の増加について話題が提起されました。この増加には主に二つの理由があります。一つは、地域展開した団体の数が増えていることです。もう一つは、指導者への謝金と運営補助の支援を拡充したためです。具体的には、昨年度までは対象となる指導者を1名としていましたが、今年度からは2名に増やしました。さらに、運営補助の補助率も1/4から1/2へ引き上げています。</p>
委員	<p>指導者への具体的な謝金の額を教えてください。</p>
事務局	<p>市からの支援としては、年間総指導時間の半分である72,000円が上限です。</p>
委員	<p>非常に少ないと思います。</p>

委員	<p>指導者は自身の時間を割き、自営業の方は収入を削って指導しているにもかかわらず、報酬が十分でないと考えられます。また、一般的な募集方法に加えて、大垣市に拠点を置く大企業が運営する様々な運動チームからの指導者派遣を検討すべきです。さらに、企業の従業員が勤務の一環として指導できるような仕組みの構築が望ましいと考えます。</p>
会長	<p>そのような取り組みは既に始まっています。職域体育振興会の会長である私のもとに、市の担当者が協力を要請に訪れました。子どもたちがスポーツや文化芸術に親しむ機会を確保するため、企業に対して協力の可能性を探る意向調査が実施されています。</p>
事務局	<p>休日の部活動の地域展開を進めてきた結果、約 8 割の展開が完了しました。現在は次の段階に入っており、企業や大学など様々な組織の協力を得て、地域全体で支える体制の構築を目指しています。具体的には、資金面だけでなく、人材や施設・設備などの提供について、企業や大学に協力をお願いしています。</p>
会長	<p>新型コロナウイルスの影響、経済の低迷、時代の変化、財政状況の変化などにより、職域体育振興会や企業のスポーツに対する姿勢も変化してきました。多くの組織でスポーツ活動への注力が減少しています。従業員数の減少によりスポーツ活動を中止した企業もあるため、市にはこうした実態を正確に把握していただきたいと考えています。</p>
事務局	<p>社会情勢の変化については十分に理解しているつもりですが、今後は長期的に持続可能な体制を構築していきたいと考えています。</p>
委員	<p>大垣市は、地域全体で、企業も含めて前向きな姿勢を示しており素晴らしいと思います。最近の甲子園では、「グッドルーザー良き敗者」というワードが注目を集めていますが、このような精神を体現できる指導者の育成が必要だと考えます。勝利至上主</p>

	<p>義ではなく、スポーツを楽しみながら継続できるよう導く指導者が重要です。</p>
委員	<p>地域全体で支える体制について、具体的にどのようなイメージをお持ちでしょうか。この体制には学校も関与すると考えられますが、学校や企業はどのように関わるのでしょうか。</p>
事務局	<p>子どもたちを中心に据え、学校、保護者、企業、NPO 団体、競技団体、大学、高校など、多様な主体が連携を取りながら支援する体制を構築することが重要だと考えます。さらに、官民連携による協定の締結も視野に入れています。支援の柱を複数設けることで、より安定した支援体制が実現できると考えており、そのようなイメージを描いています。</p>
委員	<p>学校の関与は不可欠であると考えます。ただし、部活動に積極的に関わりたいと考える教員が約 2 割程度しかいないという情報もあることから、これまでの部活動が持つ教育的価値を維持しつつ、教育委員会が主導的な役割を果たすべきだと思われまます。教員の働き方改革を進める一方で、子どもたちの利益が損なわれないよう配慮が必要です。そのため、教員の関わり方を慎重に検討し、バランスの取れた活動のあり方を模索していくことが重要です。このような視点を踏まえた取り組みの推進を期待します。</p>
事務局	<p>教員へのアンケート結果によると、部活動を地域に委ねたいという意識の教員が多いことが分かりました。しかし、学校も地域の一員であるという認識を教員に持っていただくことが重要です。また、部活動の全員加入制が廃止されたことで、活動に参加しなくなった生徒たちへの対応にも焦点を当てる必要があります。</p> <p>学校の役割として、単に部活動をどうするかだけでなく、中学生にとって文化やスポーツに触れる機会を確保することがいかに重要であるかを教員が認識し、その上で可能な取り組みを検討することが求められます。この課題に対して、まずは中学校長</p>

委員	<p>を集めて意見交換を始めています。ただし、校長と若手教員では意識に差があることも考慮し、学校内での対話も促進する必要があります。教員の役割をどのように設定すべきか、また「当初は興味がなかったがスポーツの面白さに気づいた」「友人関係が広がった」といった理想的な成果を目指し、教育課程の編成も含めた包括的な検討を進めています。</p> <p>皆さんがミナモの事例を高く評価されているように、体育の授業と連携した形も検討してほしいと思います。このアプローチは、学校での活動から地域クラブへの円滑な移行にもつながる可能性があります。</p>
事務局	<p>中学生期に限らず、生涯を通じてスポーツに親しむことが重要です。この認識のもと、現在の変革期を好機と捉え、長期的な視点でスポーツ教育に取り組んでいきたいと考えています。</p>
委員	<p>保護者であり、かつて指導者としての経験もある私は、近年の子どもたちの運動離れが顕著になっていると感じています。現代の子どもたちは、スポーツに触れる機会が著しく減少していると考えられます。先ほど議論されたように、特に女子のスポーツ参加機会の不足は重要な課題ですが、これはジェンダーの問題とも密接に関連しています。子どもたちが親しみやすいスポーツに出会えば、それが生涯スポーツへとつながる可能性が高まります。したがって、多様なスポーツに触れる機会を子どもたちに提供することが重要だと考えます。</p>
委員	<p>ミナモの授業でも、高いレベルの選手が技を披露するのを見ると、子どもたちは憧れを抱き、心が豊かになります。また、専門的見地からすると、定期的な運動習慣は医療費の削減にもつながります。この機会に、社会体育と学校体育が効果的に連携し、互いに支え合う仕組みを追求していくことが重要だと考えます。</p>

委員	<p>私は幼少期から名古屋で器械体操に取り組んでいました。その経験から、優れた指導者との出会いが選手の成長に決定的な影響を与えることを実感しています。実際、オリンピック選手である寺本明日香選手のコーチは私の恩師でもありました。このことから、質の高い指導者をいかに確保するかが極めて重要だと考えます。加えて、子どもの発達において、10歳までに多様なスポーツを体験させることが望ましいと思います。</p>
事務局	<p>8 閉会のことば</p> <p>委員の皆様には、長時間にわたりご審議いただき、心より感謝申し上げます。皆様から頂戴した貴重なご意見を踏まえ、今後とも一層スポーツの推進に取り組んでまいります。</p> <p>それでは、以上をもちまして、「令和7年度大垣市スポーツ推進審議会」を終了させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。</p>

前記のとおり、相違のないことを証するため署名捺印する。

令和7年9月19日

議長 堤 俊彦 ㊟

本会議録の作成に係る職務を行った者

社会教育スポーツ課 洞口 直樹 ㊟

捺印されている原本は、大垣市スポーツ推進審議会事務局（社会教育スポーツ課）で保管しております。